

鳥取市国府町国分寺地区「集落営農ビジョン」規模拡大型

作成日：令和 2 年 7 月 27 日

修正日： 年 月 日

市町村名	鳥取市	組織名	国分寺営農組合
------	-----	-----	---------

1 地区の範囲
鳥取市国府町国分寺地区

2 地区の概要

水田面積：29.9ha	主な水田栽培作物：水稲	農家数：28戸
認定農業者数：0経営体	人・農地プランの中心となる経営体数：0経営体	

3 組織の概要

設立時期（規約等の制定日）：令和 2 年 2 月 1 日	構成農家数：16戸
組織形態（該当形態に○を記入）： <input checked="" type="radio"/> 共同利用型 <input checked="" type="radio"/> 作業受託型 <input type="radio"/> 協業経営型	

4 集積（経営、機械の共同利用及び作業受託）の目標

【項目】		【現状】	【目標】令和 5 年度
農地の集積	集積面積 A	0ha	18.6ha
	対象水田面積 B	26.8ha	26.8ha
	集積率 A/B	0%	69%
	地区外集積面積 C	0ha	0ha
	経営面積 A+C	0ha	18.6ha
世代交代への取組		なし	若年者を青年部として仕組みづくりを図り、ノウハウの継承や意欲向上への取り組みを継続的に行う
新規就農者の活動参画		なし	計画なし

5 添付資料

集積状況一覧（別表 1, 2）、機械の利用計画（別紙）、規約の写し及び計画の根拠が分かる資料（総会資料又はビジョン作成話し合い議事録等）

注 1) 目標年度は、事業実施最終年度の翌年度から 3 年間のいずれかの年度で設定すること。

2) 経営面積等の現状及び目標は、集積状況一覧（別表 1, 2）により作成すること。

I 集落営農に対する基本方針

【集落農業の現状と課題及び課題を解決するための対応方針】

1 担い手の明確化及び水田利用集積目標

国分寺集落の農業生産は、戦後稲作を中心とした農業に、ビニールハウス施設による促成栽培野菜を加えて、この地域の中核的農業集落として農業経営を維持してきました。その中で、農業の近代化に合わせた機械化設備については、各農家は単独で、あるいは数名で共同購入により進めてきました。しかし、農業経営環境の変化により、機械化設備の費用が農業経営を圧迫するとともに、生産者の高齢化や後継者不足などの多くの問題が累積し、先行きが見えない状況に追い込まれているのが現状です。

しかしながら、近い将来、更なる高齢化や後継者不足などの進行により、継続して農業経営ができなくなる農家がさらに増加することが予想され、営農形態の抜本的な見直しが必要な状況に至りました。

幸いにも、近年、退職者を中心に、集落営農への取り組みに関心を示す人たちが増え、農業経営の仕組みを新たに構築し、永続的な地域農業の維持発展と、地域に耕作放棄地を発生させてはいけないとの信念と機運が高まってきました。

このような背景の中で事情により農作業ができない農家を助け、機械設備等のオペレーションを担う人の候補が現れ、仕組みについて試行錯誤を重ねてきました。その中でも、水稲の刈取り作業は、生育と天候などにより、的確な作業計画と実行が特に重要となっています。そこに焦点を当てた刈取り機械の共同購入と専任者による作業の仕組みを中心とした集落営農組織化を図ることにし、その水田利用集積面積の最終目標を69%以上として取り組むことにしました。

今後、土日及び祝日の作業と平日でも休暇を取ることのできる者を中心にオペレーターの若年化と育成に取り組み、多角的な集団営農へのステップアップにより、水稲生産の作業集約に取り組めます。

2 水田の作付計画（水稲以外の作物を含む）、活用方針・具体策

稲作を中心とした農業は、中小規模の農家単独では、発展はもとより、維持することすら困難な時代となりました。しかし、積み上げてきた生産技術は宝として守る価値があるものであり、その維持発展のために、機械化と組織化は必要であり、また国府平野の中心となってきた当地区の優良農地を保全・充実させることが最優先であり、これ以上集落の水稲生産面積の減少を防ぎたい。

当落地域では野菜（たまねぎ、ニンニク、白ネギ）栽培に取り組んでおり、継続して栽培を続けます。さらに、集落内の農家の作業受託を目指すなど、地区集落営農の基盤づくりに取り組み、農村集落の更なる活性化に取り組めます。

3 農業用機械施設の効率利用

現在、当地区では、ひとめぼれ・コシヒカリ・きぬむすめの3品種の水稻を生産していますが、効率化のためにコシヒカリときぬむすめに集約化し、徐々に星空舞の栽培面積を増やしていく予定です。

現在、耐用年数を大きく超えて、修理しつつ使用している個人所有のコンバイン（3条刈4台、2条刈2台）を廃棄して、性能が向上し効率的に利用できる機械を導入します。

最適期刈取りのために集約面積（コシヒカリ:6.1ha、きぬむすめ:12.5ha）から3台の刈取り機械が必須となり、コンバインを計画的に整備するのが最も急がれます。

さらに、組織発展により、地域の農業機械の集約などにより、効率利用化を図り、作業能力増強分による、作業受託の種類及び面積の拡大を進めます。

4 世代交代、組織の後継者育成に関する方針

当地区には、90歳代となった方が今でも野菜づくりに励み健康に生活している方がいます。現在、水稻の生産に携わっている農業者の年齢は、高齢の方は70代後半ですが、20～30代の若い将来の後継者が、水田農業はやがては自分で跡を継ぎたいと農作業に励む姿を多く見ます。この地区は、主な生計を会社勤務等から得る給与労働者が主体ですが、土日などには農業に携わる時間と意気込みがあります。そのため、農業機械の効率的運用体制を構築することにより、今より投入資本を抑えて、高品質の生産物を収穫します。

今後、若年の後継者及び後継予定者を青年部として営農活動や集落活動を通じて、交流し、長期経験者の持つ生産技術の継承や営農意欲の向上を目指すべく、継続して取り組むよう、仕組みづくりを図ります。

5 経営多角化の方針・具体策

当集落地域では、野菜（たまねぎ、ニンニク、白ネギなど）栽培にも取り組み、労働の分散化を図っています。特に、玉ねぎはほぼ全量が鳥取市地域の学校給食に供給されており、地産地消の取り組みに貢献しています。

今後の経営多角化については新たな生産品目への挑戦や、6次産業化などの体質強化に、引き続き真剣に取り組んでいきます。

II 農業用機械施設の整備方針

1 機械施設の整備計画

機械施設名	規格能力	台数等	金額(円)	導入予定年月	本事業による導入機械に○
コンバイン	3条、35馬力	3	17,230,200	R2.8	○